

環境影響評価準備書(案)について

準備書の構成（環境影響評価法第14条第1項、国交省令第33条 等）

前回(第4回)説明済

1.都市計画対象道路事業の名称

2.都市計画決定権者の名称

3.都市計画対象道路事業の目的及び内容（事業特性）

4.都市計画対象道路事業実施区域及びその周囲の概況
（地域特性）

5.計画段階環境配慮書における調査、予測及び評価の結果

6.計画段階環境配慮書についての
国土交通省大臣意見と都市計画決定権者の見解

7.計画段階環境配慮書の案又は配慮書についての
意見と見解

8.方法書について意見を有する者の意見の概要
及びそれに対する都市計画決定権者の見解

9.方法書についての知事意見及びそれに対する
都市計画決定権者の見解

第4回、第5回で説明

10.都市計画対象道路事業に係る環境影響評価の項目
並びに調査、予測及び評価の手法

11.環境影響評価の結果
（調査・予測及び評価結果、環境保全措置）

12.事後調査

13.環境影響評価の総合的な評価

14.環境影響評価の委託先

○本日の審議では「水環境」、「地形及び地質」、「地盤」、「景観」、「人と自然との触れ合いの活動の場」、「地域の歴史的文化的特性を生かした環境の状況」を対象とします。

※方法書では道路(地表式又は掘割式)の存在に係る、地下水・河川・地盤を選定していましたが、都市計画原案の作成に伴い、掘割式は計画されないことから、該当項目を除いています。

影響要因の区分 環境要素の区分			工事の実施						土地又は工作物の存在及び供用				事業特性・地域特性を踏まえた項目選定の理由	
			建設機械の稼働	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	切土工等又は既存の工作物の除去	工事施工ヤードの設置	工事用道路等の設置	掘削工事、トンネル工事の実施	道路(地表式又は掘割式)の存在	道路(高上式)の存在	道路(地下式)の存在	自動車の走行		
環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	大気環境	大気質	二酸化窒素	●	●								住居等が存在するため、工事の実施及び土地又は工作物の存在及び供用(自動車の走行)に係る二酸化窒素及び浮遊粒子状物質による影響が考えられます。	
			浮遊粒子状物質	○	○								住居等が存在するため、工事の実施に係る粉じん等による影響が考えられます。	
		騒音	騒音	○	○								住居等が存在するため、工事の実施及び土地又は工作物の存在及び供用に係る騒音による影響が考えられます。	
		振動	振動	○	○							○	住居等が存在するため、工事の実施及び土地又は工作物の存在及び供用に係る振動による影響が考えられます。	
		低周波音	低周波音									●	住居等が存在し、かつその周辺の対象道路のうち一部の区間について高上式(橋もしくは高架構造)で計画しているため、土地又は工作物の存在及び供用に係る低周波音による影響が考えられます。	
	水環境	水質	水の濁り			●								公共用水域が存在するため、工事の実施に係る水質(水の濁り)への影響が考えられます。
		地下水の水位	地下水の水位					■	※	■				住居等が存在し、かつその周辺の対象道路のうち一部の区間について地下式で計画しているため、工事の実施及び土地又は工作物の存在及び供用に係る地下水の水位に対する影響が考えられます。
		河川	河川の変化					■	※	■				住居等が存在し、かつその周辺の対象道路のうち一部の区間について地下式で計画しているため、工事の実施及び土地又は工作物の存在及び供用に係る河川の変化に対する影響が考えられます。
	土壌に係る環境 その他の環境	地形及び地質	重要な地形及び地質				○		○					重要な地形及び地質が存在するため、工事の実施及び土地又は工作物の存在及び供用に係る重要な地形及び地質への影響が考えられます。
		地盤	地盤沈下					●	※	●				住居等及び軟弱地盤帯等が存在し、かつ対象道路のうち一部の区間について地下式で計画しているため、工事の実施及び土地又は工作物の存在及び供用に係る地盤沈下による影響が考えられます。
	その他の環境要素	日照障害								○			住居等が存在し、かつ対象道路のうち一部の区間について高上式(橋もしくは高架構造)で計画しているため、土地又は工作物の存在及び供用に係る日照障害の影響が考えられます。	

前回審議済

注1) 表中の“○”印は国土交通省令に示されている参考項目、“●”印は国土交通省令に示されている参考項目以外の項目、“■”印は愛知県環境影響評価指針または計画段階環境配慮書に対する国土交通大臣意見に示されている項目、“太枠”印は計画段階環境配慮書で選定された計画段階環境配慮事項に準ずる項目を示す。“※”印は、方法書において選定していたが、準備書で削除した項目。

影響要因の区分		工事の実施						土地又は工作物の存在及び供用				事業特性・地域特性を踏まえた項目選定の理由
		建設機械の稼働	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	既存の工作物の除去	切土工等又は	工事施工ヤードの設置	工事用道路等の設置	掘削工事、トンネル工事の実施	道路(地表式)の存在	道路(高上式)の存在	道路(地下式)の存在	
環境要素の区分												
生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	動物	重要な種及び注目すべき生息地	●			○	●	○	●			重要な種の生息環境が存在するため、工事の実施及び土地又は工作物の存在及び供用に係る動物(重要な種)への影響が考えられます。
	植物	重要な種及び群落				○	●	○	●			生育環境が存在するため、工事の実施及び土地又は工作物の存在及び供用に係る植物への影響が考えられます。
	生態系	地域を特徴づける生態系	●			○	●	○	●			地域を特徴づける生態系を構成する動物・植物の生息・生育基盤が存在するため、工事の実施及び土地又は工作物の存在及び供用に係る生態系(地域を特徴づける生態系)への影響が考えられます。
人と自然との豊かな触れ合いの確保を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素	景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観				●		○				主要な眺望点及び景観資源が存在し、なおかつ県立自然公園を通過するため、工事の実施及び土地又は工作物の存在及び供用に係る主要な眺望景観への影響が考えられます。
	人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場				●		○		●		主要な人と自然との触れ合いの活動の場が存在し、なおかつ県立自然公園を通過するため、工事の実施及び土地又は工作物の存在及び供用に係る主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響が考えられます。
		地域の歴史的文化的特性を生かした環境の状況(文化財)					■				■	
環境への負荷の量の程度により予測及び評価されるべき環境要素	廃棄物等	建設工事に伴う副産物			○							工事の実施に伴い発生する建設副産物を事業実施区域外へ搬出することを想定しているため、工事の実施に係る廃棄物等の影響が考えられます。
	温室効果ガス等(地球環境)	温室効果ガス等	■									工事の実施に伴い温室効果ガス等(二酸化炭素)が発生するため、工事の実施に係る温室効果ガスへの影響が考えられます。

前回審議済

前回審議済

注1) 表中の“○”印は国土交通省令に示されている参考項目、“●”印は国土交通省令に示されている参考項目以外の項目、“■”印は愛知県環境影響評価指針または計画段階環境配慮書に対する国土交通大臣意見に示されている項目、“太枠”印は計画段階環境配慮書で選定された計画段階環境配慮事項に準ずる項目を示す。
 注2) 「地域の歴史的文化的特性を生かした環境の状況」は愛知県環境影響評価指針に示されている項目。

○調査、予測及び評価の手法は、**国土交通省令に基づき、道路環境影響評価の技術手法（平成24・令和2年度版）に示される手法、及び愛知県の環境影響評価指針**に示される手法を参考として、事業特性及び地域特性を踏まえて選定しました。

○騒音の予測モデルを最新版（ASJ RTN-Model 2023）とした以外には、**方法書から手法の大きな変更はありません。**

環境要素の区分			調査の手法	予測の手法
大気環境	大気質	二酸化窒素・浮遊粒子状物質	既存資料調査、現地調査	ブルーム式及びパフ式を用いた予測
		粉じん等	既存資料調査、現地調査	事例の引用又は解析により得られた経験式を用いた予測
	騒音	騒音	既存資料調査	伝搬理論に基づく予測式を用いた予測
	振動	振動	既存資料調査、現地調査	事例の引用又は解析により得られた振動の伝搬理論に基づく予測式および80%レンジの上端値を予測するための式を用いた予測
	低周波音	低周波音	現地調査	既存の調査結果より導かれた予測式を用いた予測
水環境	水質	水の濁り	既存資料調査、現地調査	類似事例を用いて推定もしくは計算による予測
	地下水の水位	地下水の水位		事例の引用又は理論的解析による予測
	河川	河川の変化		事例の引用又は理論的解析による予測
土壌に係る環境	地形及び地質	重要な地形及び地質	既存資料調査、現地調査	土地の改変範囲と重要な地形及び地質の分布範囲を重ね合わせることにによる予測
その他の環境	地盤	地盤沈下（愛知側のみ）		理論モデルによる計算又は数値シミュレーションを用いた予測
その他の環境要素		日照障害	既存資料調査、現地調査	日影図の作成による予測
動物	重要な種及び注目すべき生息地		既存資料調査、現地調査	専門的知見や類似事例を参考とした予測
植物	重要な種及び群落			
生態系	地域を特徴づける生態系			
景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観		既存資料調査、現地調査	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観と事業実施区域との重ね合わせフォトモンタージュ法等の視覚的な表現方法による予測
人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場			主要な人と自然との触れ合いの活動の場及び自然資源と事業実施区域の重ね合わせによる予測
地域の歴史的文化的特性を生かした環境の状況（文化財）				地域の歴史的文化的特性を生かした環境（文化財）と事業実施区域の重ね合わせによる予測
廃棄物等	建設工事に伴う副産物		既存資料調査、現地調査	特性及び地域特性の情報に基づいた予測
温室効果ガス等	温室効果ガス等			実施に伴い発生する温室効果ガスの発生状況を予測

前回審議済

前回審議済

前回審議済

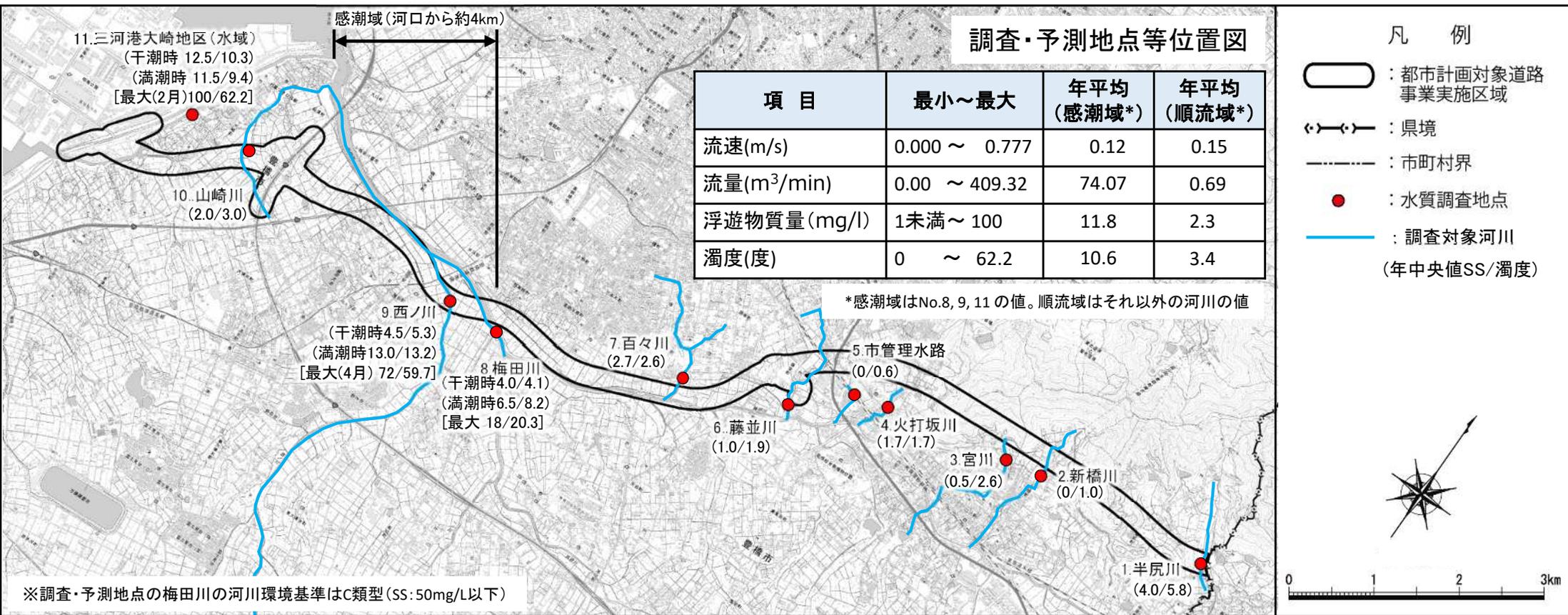
- ①事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減、若しくは環境保全への配慮がなされているかについて見解を明らかにする
- ②法的な基準に適合しているか検討（※法令で評価基準又は目標が示されている場合）

評価の手法

■ 調査、予測及び評価結果

・裸地等の転圧やシート等の被覆、法面の早期緑化やシート等の被覆、沈砂池等により濁水の発生と流出を抑えられるため、環境保全措置は実施しません。

調査した情報	調査手法	影響要因の区分	予測		環境保全措置	評価
			予測の手法	予測結果		
○水質の状況 (浮遊物質量の濃度、濁度) ○水象の状況 (河川の流量、流向及び流速)	現地調査	工事	類似事例を用いた推定による予測	○ 裸地等は転圧やシート等による被覆等を行うこと、法面は早期緑化に努めるとともに、シート等による被覆等により、裸地状態の短期化・縮小化を図ることで、降雨による濁水の発生を極力抑えること、必要に応じて濁水の流出を防止する沈砂池等を設けること等により、水の濁りの影響は極めて小さいと予測される。	—	○



■ 調査結果

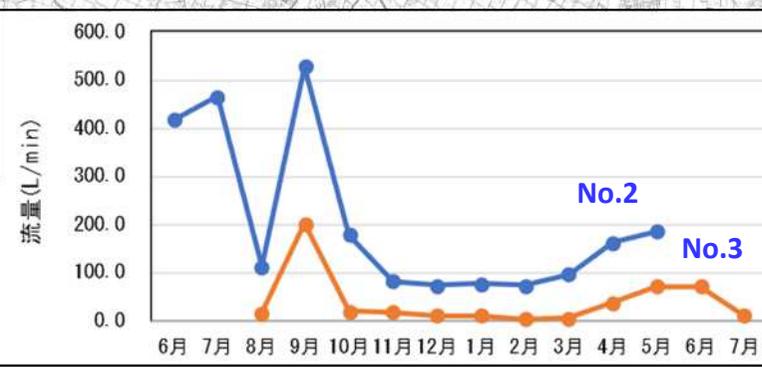
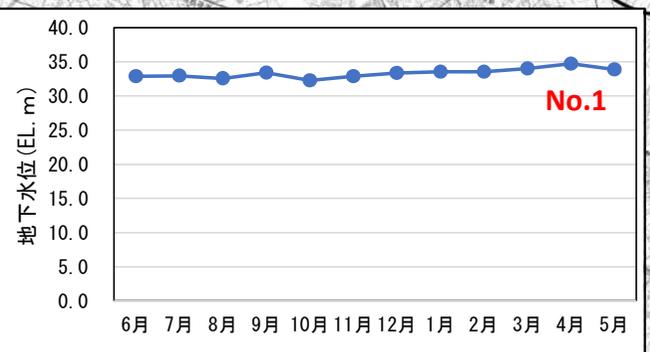
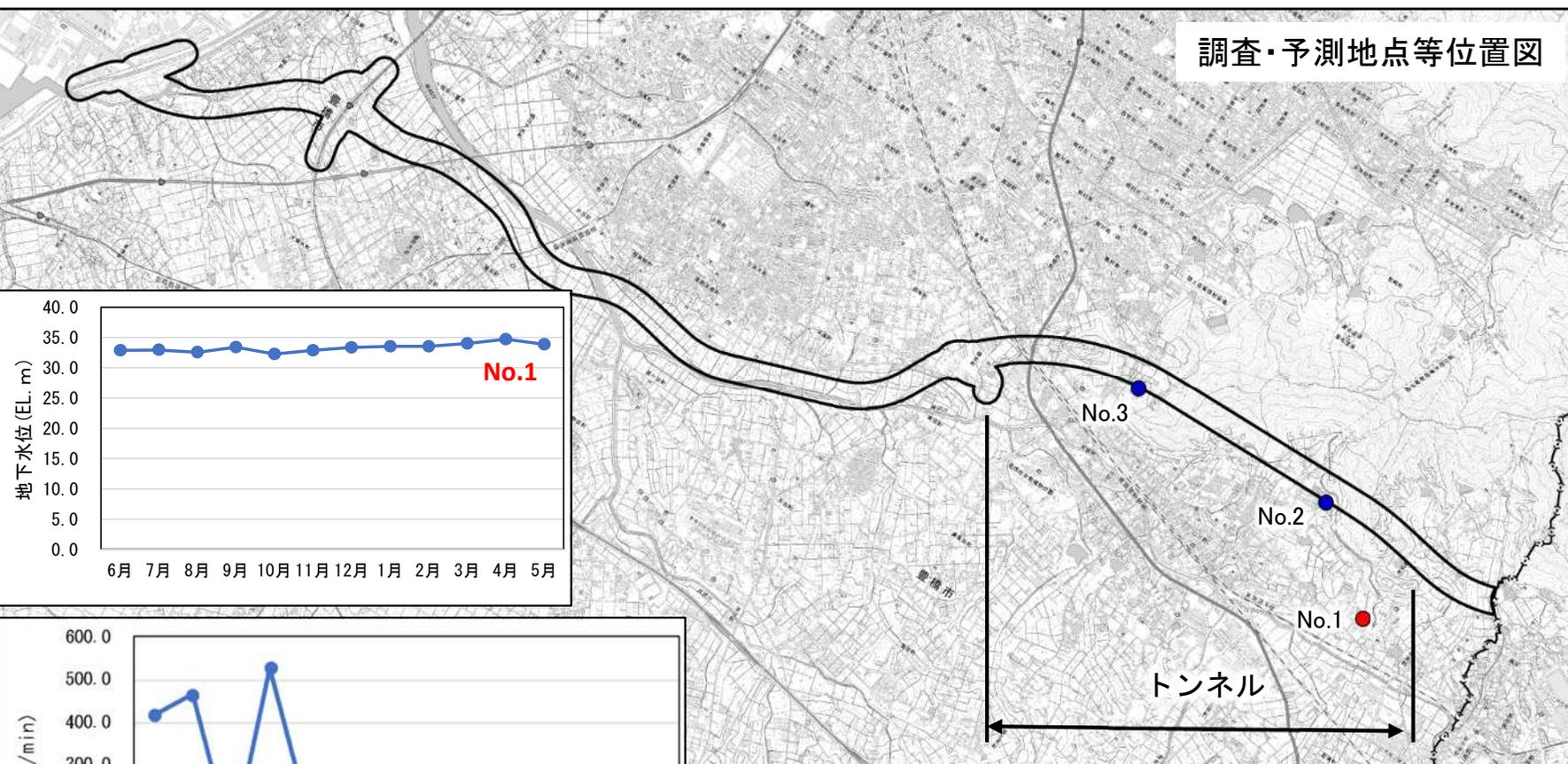
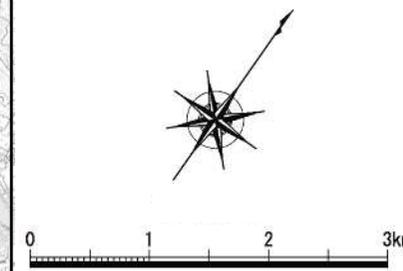
- トンネル区間周辺の測定可能な井戸1箇所と、河川源流部の湧水地点2箇所、現地調査を行いました。

環境要素の区分	調査した情報	調査手法
地下水の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○地形、地質及び地盤の状況 ○地下水の状況(地下水位、湧水量) ○地下水の利用の状況 	既存資料調査及び現地調査

調査・予測地点等位置図

凡 例

- : 都市計画対象道路事業実施区域
- : 県境
- : 市町村界
- : 調査地点(地下水位の観測)
- : 調査地点(湧水量)



■ 予測及び評価結果

- 予測の結果、予測地点の井戸における地下水位の低下は生じないと予測され、湧水量は低下すると予測されることから、環境保全措置として「観測修正法による最適な工法の採用」を実施することしました。

調査項目	No	地点名	地下水位 [EL.m]			変化幅 [m]
			工事前	工事中	供用後	
地下水位	1	井戸1	33.67	33.67	33.67	0.00

調査項目	No	地点名	流量 [L/min]			変化幅 [L/min]	影響割合 (%)
			工事前	工事中	供用後		
湧水量	2	湧水量1	109.6	77.2	76.5	-33.1	30
	3	湧水量2	31.9	28.9	25.3	-6.6	21

影響要因の区分	予測		環境保全措置	評価	
	予測の手法	予測結果			
		工事			存在・供用
工事の実施、存在及び供用	三次元水収支解析モデルを用いた予測	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地下水位 地下水位の低下は生じない。 ■ 湧水量への影響 すべての地点で湧水量の低下が予測される。 	観測修正法による最適な工法の採用	○	

■環境保全措置・事後調査の検討(地下水の水位)

- ・環境保全措置としては、「観測修正法による最適な工法の採用」を実施します。
- ・工事前、工事中の地下水の状況を観測し、その結果をもとに最適な施工方法を採用することで、影響はできる限り回避・低減されと考えられます。
- ・予測地域における地下水や地質・水理、土質等の状況が十分に明らかでなく、予測の不確実性が考えられることから、事後調査を検討しました。

環境保全措置	環境保全措置の効果	効果の不確実性	他の環境への影響	検討結果	事後調査
観測修正法による最適な工法の適用	今後の具体的な工法の検討にあたっては、事業実施段階において得られる地下水に関する情報を踏まえて対策工を検討する。 さらに、工事前、工事中の地下水の状況を観測し、その結果をもとに最適な施工方法(出水対策(覆工コンクリート、防水シートの設置)、止水・減水対策工等)を採用することで、影響を低減できる。	あり	なし	地下水への影響の低減が見込まれることから、事業者の実行可能な範囲で地下水への影響はできる限り回避・低減されと考えられる。	有

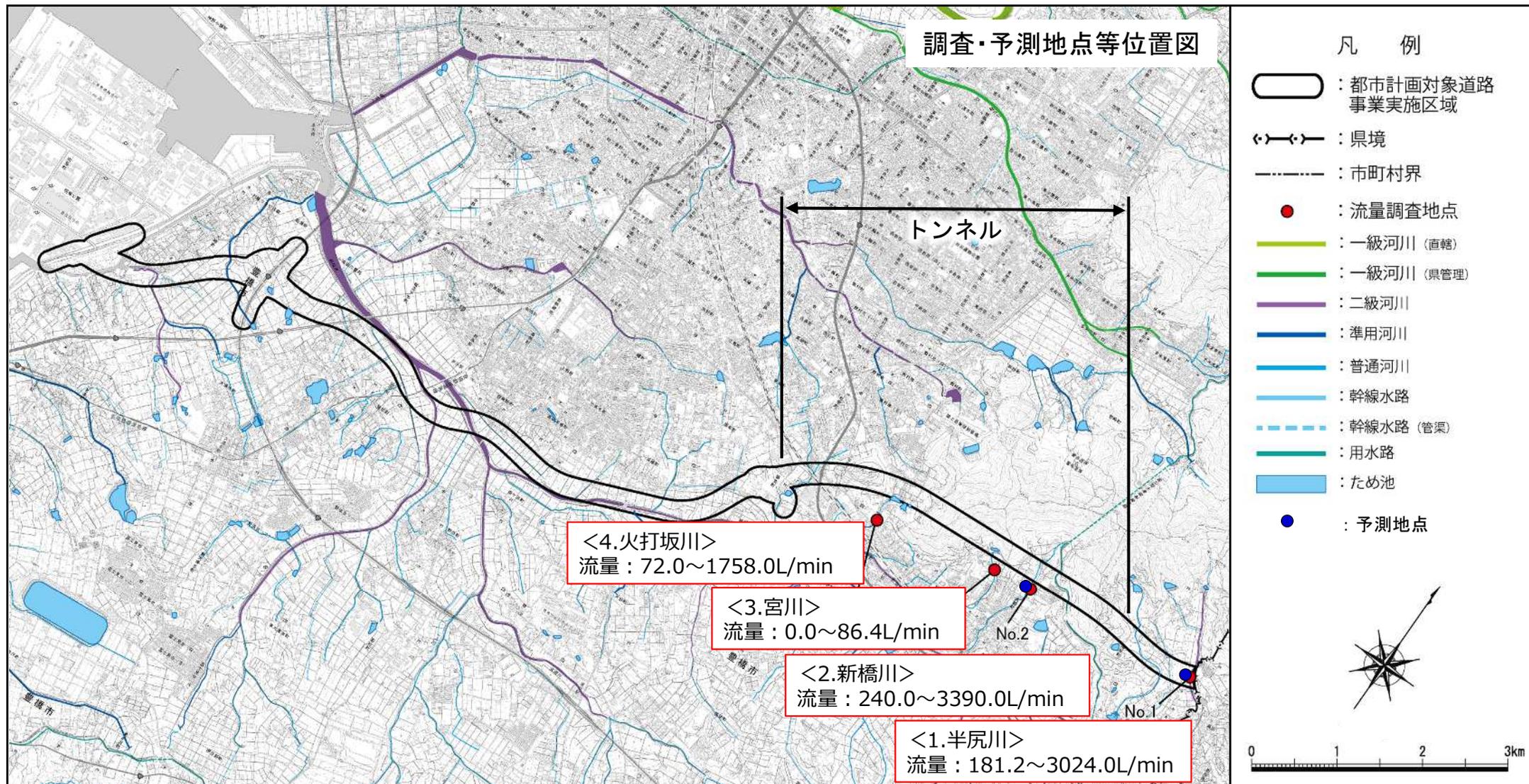
事後調査の概要

調査項目	事後調査手法	調査範囲	調査時期及び期間	事後調査結果により環境影響の程度が著しい場合の対応方針
地下水位の状況	地下水位の観測	トンネル区間周辺の井戸等	工事前～工事期間中及び工事完了後3年間(月1回又は連続観測)	関係機関と協議し、必要に応じて専門家等の指導・助言を得て追加調査等を行い、適切な措置を講じる。
	湧水量の観測	トンネル区間周辺の湧水等	工事前～工事期間中及び工事完了後3年間(月1回)	関係機関と協議し、必要に応じて専門家等の指導・助言を得て追加調査等を行い、適切な措置を講じる。

■ 調査結果

- トンネル区間周辺の主要な河川4地点で、現地調査を行いました。

環境要素の区分	調査した情報	調査手法
河川の変化	○河川の状況(河川の流量、湧水の分布)	既存資料調査 及び現地調査



■ 予測及び評価結果

• 予測の結果、水面利用については影響はないと予測されますが、一部の河川で流量の低下が予測されることから、環境保全措置として「観測修正法による最適な工法の採用」を実施することとしました。

No	地点名	流量 [L/min]			変化幅 [L/min]	影響割合 (%)
		工事前	工事中	供用後		
1	半尻川	398.9	398.8	398.8	-0.1	0.03
2	新橋川	1,054.0	991.0	983.2	-70.8	7

影響要因の区分	予 測		環境保全措置	評価	
	予測の手法	予測結果			
		工事			存在・供用
工事の実施、存在及び供用	三次元水収支解析モデルを用いた予測	<ul style="list-style-type: none"> ■ 河川流量 一部の河川で流量の低下が予測される。 ■ 水面利用 漁業権が設定されている河川はなく、影響はないと予測される。 	観測修正法による最適な工法の採用	○	

■ 環境保全措置・事後調査の検討

- ・環境保全措置としては、「観測修正法による最適な工法の採用」を実施します。
- ・工事前、工事中の河川流量の状況を観測し、その結果をもとに最適な施工方法を採用することで、影響はできる限り回避・低減されと考えられます。
- ・予測地域における地下水や地質・水理、土質等の状況が十分に明らかでなく、予測の不確実性が考えられることから、事後調査を検討しました。

環境保全措置	環境保全措置の効果	効果の不確実性	他の環境への影響	検討結果	事後調査
観測修正法による最適な工法の適用	今後の具体的な工法の検討にあたっては、事業実施段階において得られる地下水に関する情報を踏まえて対策工を検討する。 さらに、工事前、工事中の河川流量の状況を観測し、その結果をもとに最適な施工方法（出水対策（覆工コンクリート、防水シートの設置）、止水・減水対策工等）を採用することで、影響を低減できる。	あり	なし	河川及び沢の流量への影響の低減が見込まれることから、事業者の実行可能な範囲で地下水への影響はできる限り回避・低減されと考えられる。	有

事後調査の概要

調査項目	事後調査手法	調査範囲	調査時期及び期間	事後調査結果により環境影響の程度が著しい場合の対応方針
河川の流量	河川の流量の観測	トンネル区間周辺の利水のある河川及び沢	工事前～工事期間中及び工事完了後3年間（月1回）	関係機関と協議し、必要に応じて専門家等の指導・助言を得て追加調査等を行い、適切な措置を講じる。

■ 調査、予測及び評価結果

- 高師小僧の重要な文化財指定地は事業実施区域に重ならず、岩屋観音・火打坂はトンネルで通過するため学術上重要と考えられる露岩部を改変しないことから、影響はないと予測されます。

調査した情報	調査手法
<ul style="list-style-type: none"> ○地形及び地質の概況 ○重要な地形の分布、状態及び特性 ○重要な地質の分布、状態及び特性 	既存資料調査 及び現地調査

影響要因の区分	予測		環境保全措置	評価
	予測の手法	予測結果		
工事の実施, 存在及び供用	事業実施区域との重ね合わせ、図上解析することにより、改変の位置、程度を把握	・重要な地形及び地質においては、事業実施区域に重ならない、又は地下式構造によって通過するため、事業実施による改変は生じないと予測される。	—	○



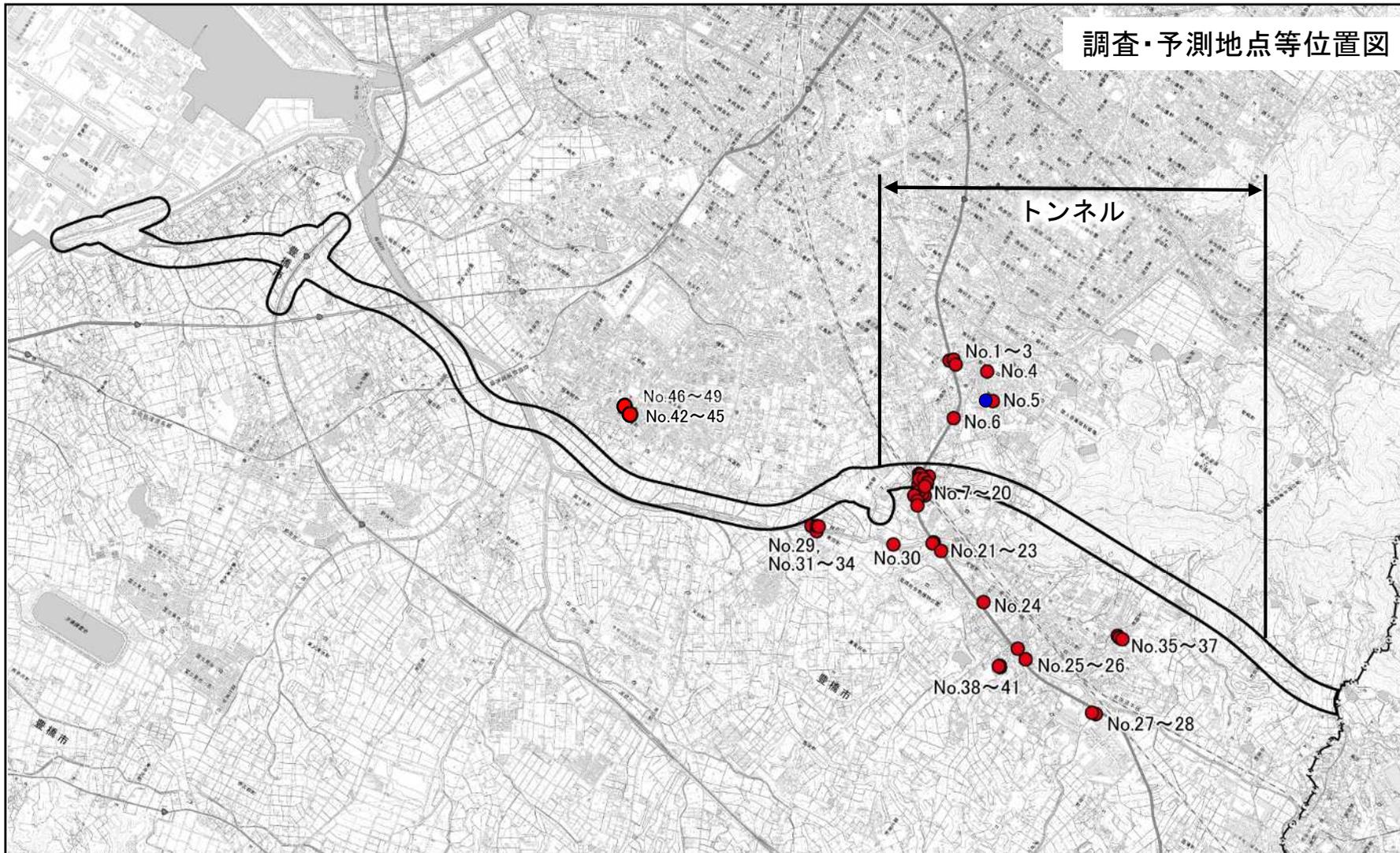
■ 調査結果 ・既往ボーリング調査地点の資料を収集し、土質試験結果を整理しました。

調査した情報	調査手法
○地下水の状況 ○軟弱地盤層の状況	既存資料調査 及び現地調査

調査・予測地点等位置図

凡 例

-  : 都市計画対象道路事業実施区域
-  : 県境
-  : 市町村界
-  : 地質調査地点
-  : 予測地点



■ 予測及び評価結果

・予測の結果、地盤沈下が予測されることから、環境保全措置として「観測修正法による最適な工法の採用」を実施することしました。

予測項目	粘土層上面 (GL-m)	粘土層層厚 H (m)	圧縮指数 Cc	間隙比 E	水位低下量 (m)	各層沈下量 (cm)	沈下量合計 (cm)
地盤沈下量 上段：工事の実施、 下段：存在及び供用	3.7	5.0	0.6	1.2	0.272 0.273	2.961 2.975	4.226
	15.9	1.2	0.3	0.7	0.272 0.273	0.186 0.187	4.247
	20.5	8.1	0.4	0.9	0.272 0.273	1.079 1.085	

※沈下量は、安全側の予測とするため、地盤沈下への影響が最大となる想定の設定し算出した予測値です。

- ・予測地点は、軟弱地盤(粘土地盤)が分布し、粘性土層厚が最も厚く確認されており、予測計算に必要な地盤情報が室内土質試験により得られている1地点を設定しました。
- ・地下水位を地表面に設定し、地下水位以浅の層厚を0mと設定しました。

影響要因 の区分	予 測		環境保全措置	評 価	
	予測の手法	予測結果			
		工事中			供用後
工事の実施、 存在及び供用	圧密理論モデルとして一次元圧密沈下計算により地下水位低下に伴う地盤沈下の程度を予測	工事中	供用後	観測修正法による 最適な工法の採用	○

■ 環境保全措置・事後調査の検討

- ・環境保全措置としては、「観測修正法による最適な工法の採用」を実施します。
- ・工事前、工事中の地下水の状況を観測し、その結果をもとに最適な施工方法を採用することで、影響はできる限り回避・低減されと考えられます。
- ・予測地域における地下水や地質・水理、土質等の状況が十分に明らかでなく、予測の不確実性が考えられることから、事後調査を検討しました。

環境保全措置	環境保全措置の効果	効果の不確実性	他の環境への影響	検討結果	事後調査
観測修正法による最適な工法の適用	今後の具体的な工法の検討にあたっては、事業実施段階において得られる地下水に関する情報を踏まえて対策工を検討する。 さらに、工事前、工事中の地下水の状況を観測し、その結果をもとに最適な施工方法（出水対策（覆工コンクリート、防水シートの設置）、止水・減水対策工等）を採用することで、影響を低減できる。	あり	なし	地盤沈下への影響の低減が見込まれることから、事業者の実行可能な範囲で地盤への影響はできる限り回避・低減されと考えられる。	有

事後調査の概要

調査項目	事後調査手法	調査範囲	調査時期及び期間	事後調査結果により環境影響の程度が著しい場合の対応方針
地盤沈下の状況	測量による沈下量の観測	トンネル区間周辺の住居	工事前～工事期間中及び工事完了後3年間（年1回以上※注1）	関係機関と協議し、必要に応じて専門家等の指導・助言を得て追加調査等を行い、適切な措置を講じる。

※注1) 地下水位の状況の事後調査結果を踏まえ、地盤沈下への影響が想定される場合には調査の追加を検討する。

■ 調査結果

- 眺望景観の変化が生じると想定される主要な眺望点は、3箇所が確認されました。

調査した情報	調査手法	調査結果の概要
<ul style="list-style-type: none"> ○主要な眺望点の状況 ○景観資源の状況 ○主要な眺望景観の状況 	既存資料調査 及び現地調査	<主要な眺望点> 調査地域に3箇所存在 <景観資源> 調査地域に6箇所存在 <眺望景観> 調査地域に3箇所存在

<主要な眺望点>

No.	主要な眺望点	眺望高さ	視対象
1	ポートインフォメーションセンター カモリア	約29.5m	三河湾
2	岩屋緑地公園	約116.5m	豊橋市街地、南部田園周辺の広大な畑地、蔵王山
3	岩屋観音	約80.5m	岩屋緑地、豊橋市街地、南部田園周辺の広大な畑地

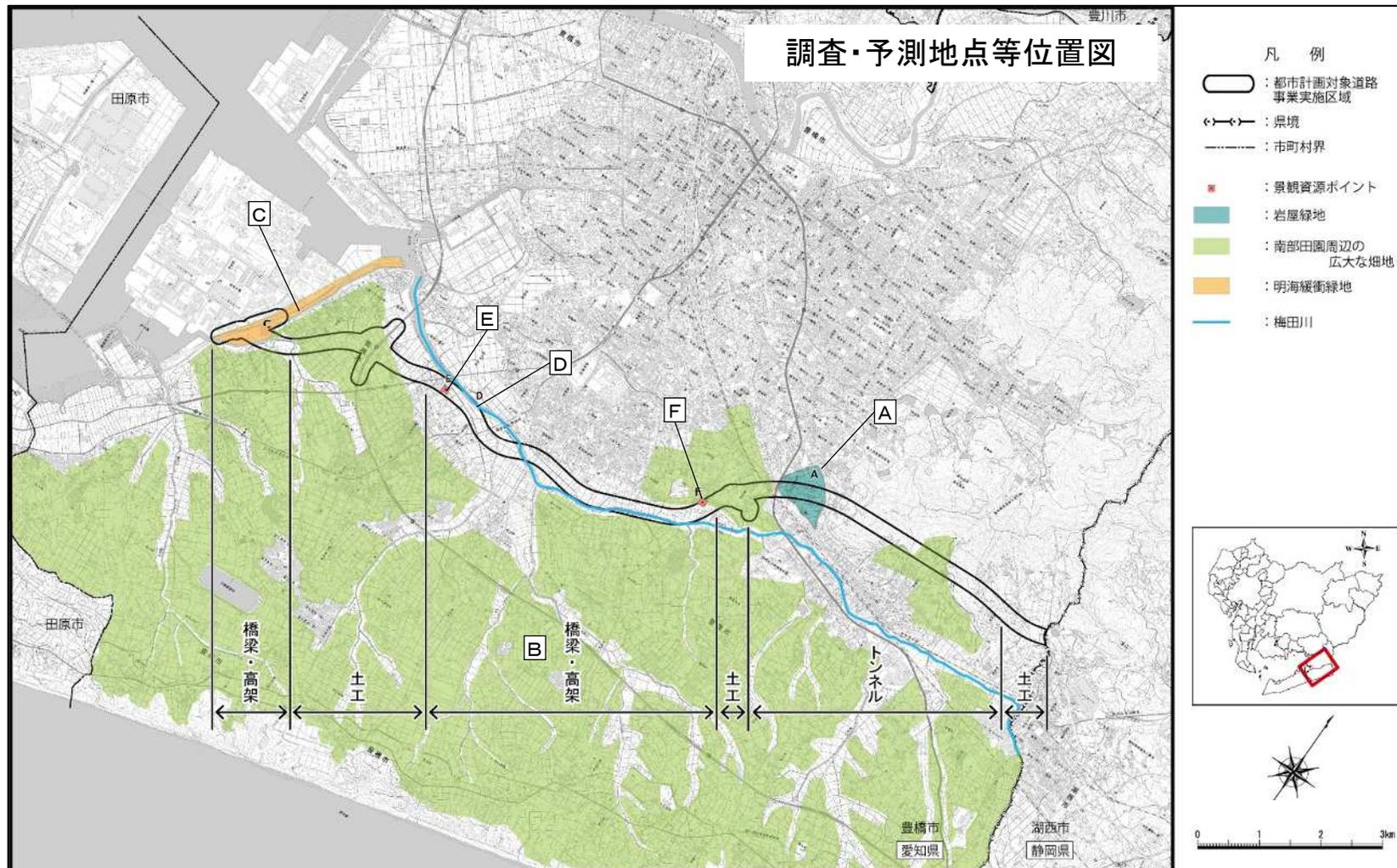


■ 調査結果

- 変化が生じると想定される景観資源は、6箇所が確認されました。

<景観資源>

No.	景観資源
A	岩屋緑地
B	南部田園周辺の広大な畑地
C	明海緩衝緑地
D	梅田川
E	車神社古墳
F	高師原



■ 予測及び評価結果

■ 主要な眺望点及び景観資源の改変

・主要な眺望点の改変はありません。また、景観資源の一部が改変されるものの、いずれの地点も、景観資源の価値を大きく損なうものではないため、影響はない、または極めて小さいと予測されます。

■ 主要な眺望景観の変化

・主要な眺望景観に変化が生じるおそれのある3地点は、いずれも臨海部の工業地帯、又は住宅地や商業施設等の周辺建物に溶け込んでいるため、目立ちにくくなっています。

・これらのことから、眺望景観の変化は極めて小さいため、環境保全措置は実施しません。

環境要素の区分	影響要因の区分	予測		環境保全措置	評価	
		予測の手法	予測結果			
			工事			存在
景観	工事の実施、道路の存在	<p>■ 主要な眺望点及び景観資源の改変については、事業実施区域との重ね合わせ、図上解析することにより、改変の位置、程度を把握</p> <p>■ 主要な眺望景観の変化については、フォトモンタージュ法等の視覚的な表現方法により眺望景観の変化の程度を把握</p>	○	○	—	○





2.岩屋緑地公園からの眺望 (フォトモンタージュ)

■ 調査結果

対象道路に近接する人と自然との触れ合いの活動の場は、5箇所が確認されました。

<p>調査した情報</p>	<p>○人と自然との触れ合いの活動の場の概況 ○主要な触れ合い活動の場の分布、 利用状況及び利用環境の状況</p>	<p>調査結果</p>	<p><分布> ◆サイクリングコース1箇所(二川のんびり歴探コース)、◆散策コース1箇所(岩屋展望コース)、◆公園1箇所(岩屋緑地)、◆バードウォッチングサイト1箇所(境川河口)、◆ホタル観賞地1箇所が存在 <利用状況等> ・サイクリングコース：寺社への参拝、散歩、登山(ハイキング)等 ・散策コース：散歩、スポーツ、登山(ハイキング)、虫とり等 ・公園：ウォーキング、散策、参拝等 ・バードウォッチングサイト：散歩、サイクリング等 ・ホタル観賞地：ホタルの観賞</p>
<p>調査手法</p>	<p>既存資料調査及び現地調査</p>		



参拝



登山(ハイキング)



■ 予測及び評価結果

■ 工事の実施／道路の存在

・いずれの地点も自然資源の改変は極めて小さく、利用性・快適性の変化は生じず、影響はない、または極めて小さいと予測されました。

■ 自動車の走行

・境川河口については、バードウォッチングには問題にならない騒音レベルと想定され、大きな変化は生じず、影響は極めて小さいと予測されました。
 ・これらのことから、環境保全措置は実施しません。

環境要素の区分	影響要因の区分	予測		環境保全措置	評価	
		予測の手法	予測結果			
			工事			存在
主要な人と自然との触れ合いの活動の場	工事の実施、道路の存在	<p>■ 工事の実施に係る影響： 主要な触れ合い活動の場と工事施工ヤード、工事用道路の設置が想定される範囲の重ね合わせにより、改変の位置及び程度を把握</p> <p>■ 道路の存在及び供用に係る影響：主要な触れ合い活動の場について、分布又は利用環境の改変の程度を踏まえて解析</p> <p>■ 自動車の走行に係る影響： 自動車の走行により生じる活動内容への影響を対象</p>	○	○	—	○

■ 工事の実施／道路の存在
 ・いずれの地点も、自然資源の改変は生じず、また一部交差する箇所には横断ボックスが設置されることで利用性・快適性の変化は生じないことから、影響はない、または極めて小さいと予測された。

■ 自動車の走行
 ・境川河口に最も近い騒音の調査地点において、対象道路の供用後に計画交通量の発生が見込まれる時期の騒音は現況値よりも大きくなるが、バードウォッチングには問題にならない騒音レベルと想定され、大きな変化は生じない。

■ 調査結果 ・天然記念物が2件、埋蔵文化財が61箇所存在します。

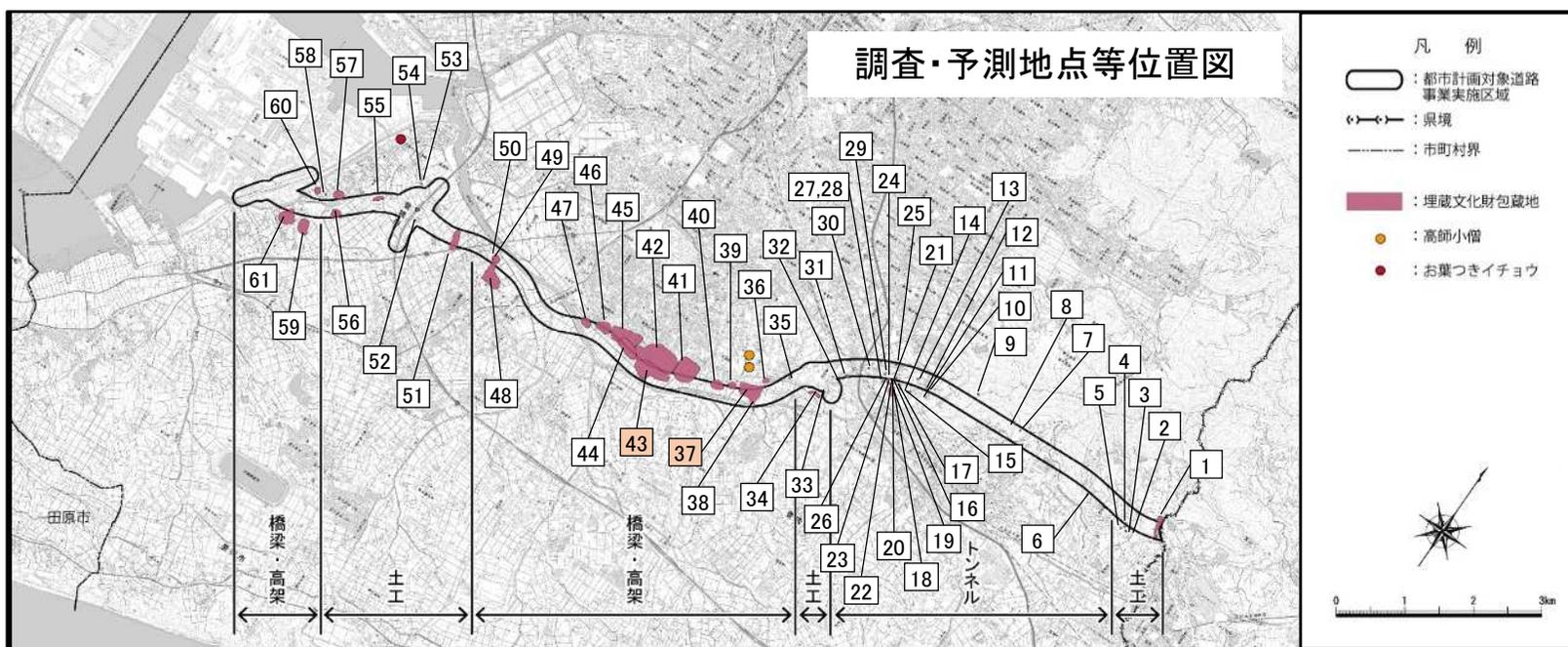
調査した情報	調査手法	調査結果の概要
○主要な地域の歴史的文化的環境の状況	既存資料調査	<ul style="list-style-type: none"> ・方法書段階の実施区域に「高師小僧」「お葉つきイチョウ」が存在 ・調査地域に埋蔵文化財包蔵地61箇所が存在

<埋蔵文化財包蔵地>

No.	名称	No.	名称
1	新堂ノ前遺跡	31	天王古窯
2	西荒神7号墳	32	天王池古窯
3	西荒神5号墳	33	摩耶A古窯
4	西荒神6号墳	34	摩耶B古窯
5	西荒神4号墳	35	古並古窯
6	上ノ山1号墳	36	百々池A古窯
7	北裏古墳	37	窪田遺跡
8	千間山古墳	38	天伯古窯
9	松明峠古墳	39	芝切遺跡
10	三ツ池2号窯	40	八坂遺跡
11	三ツ池1号窯	41	浜道遺跡
12	東山1号墳	42	桜遺跡
13	火打坂2号墳	43	中島(上方)遺跡
14	火打坂A古窯	44	宮前遺跡
15	火打坂3号墳	45	高芦神社南遺跡
16	火打坂9号墳	46	津森遺跡
17	火打坂10号墳	47	高師神社南遺跡
18	火打坂B古窯	48	池堀田遺跡
19	火打坂17号墳	49	車神社貝塚
20	火打坂20号墳	50	車神社古墳
21	火打坂13号墳	51	本沢遺跡
22	火打坂19号墳	52	西山田古窯
23	火打坂18号墳	53	皆住遺跡
24	火打坂15号墳	54	皆住古窯
25	火打坂11号墳	55	洗橋遺跡
26	火打坂16号墳	56	谷洞遺跡
27	火打坂14号墳	57	南辻火当遺跡
28	火打坂21号墳	58	岩山古墳
29	火打坂12号墳	59	波入江城址
30	火打坂22号墳	60	笠松遺跡
		61	波入江遺跡

<天然記念物>

No.	種別	指定区分	名称	指定年月日
1	天然記念物(地質鉱物)	県	高師小僧	S32.10.10, H12.11.21 追加
2	天然記念物(植物)	県	お葉つきイチョウ	S30.7.1



■ 予測及び評価結果

■ 天然記念物

・「高師小僧」、「お葉つきイチョウ」は、実施区域から離れていることから、影響はないと予測されます。

■ 埋蔵文化財包蔵地

・「窪田遺跡」及び「中島（上方）遺跡」の一部が改変されると予測されることから、環境保全措置として「文化財保護法に基づく適切な措置」を実施することとしました。

環境要素の区分	影響要因の区分	予 測		環境保全措置	評価	
		予測の手法	予測結果			
			工事			存在
地域の歴史的文化的特性を生かした環境	工事の実施、道路の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・工事の実施に係る影響の予測は、文化財と事業実施区域との重ね合わせにより、文化財の消滅の有無及び改変の程度を把握 ・道路の存在及び共用に係る影響の予測は、日照障害、排気ガスによる植物の天然記念物への影響について、その影響の程度を科学的知見や類似事例を参考に予測 	<ul style="list-style-type: none"> × 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財保護法に基づく適切な措置：窪田遺跡、中島（上方）遺跡 	○

■環境影響評価の結果 (1 / 2)

■水質～地盤

- 地下水の水位、河川、地盤では、事後調査を実施することとしました。

環境要素の区分		影響要因の区分	予測結果		環境保全措置	評価結果	事後調査
			工事	存在・供用			
大気質	二酸化窒素 ・浮遊粒子状物質	工事(建設機械)	○	—	—	○	実施しない
		工事(工事用車両)	○	—	—	○	実施しない
		供用(自動車の走行)	—	○	—	○	実施しない
	粉じん等	工事(建設機械)	×	—	散水	○	実施しない
		工事(工事用車両)	○	—	—	○	実施しない
騒音	工事(建設機械)	前回審議済		防音シートなどの遮音対策(防音シート又は防音パネルの設置)	○	実施しない	
	工事(工事用車両)	○	—	—	○	実施しない	
	供用(自動車の走行)	—	○	—	○	実施しない	
振動	工事(建設機械)	○	—	—	○	実施しない	
	工事(工事用車両)	○	—	—	○	実施しない	
	供用(自動車の走行)	—	○	—	○	実施しない	
低周波音	低周波音	供用(自動車の走行)	—	○	—	○	実施しない
水質	水の濁り	工事	○	—	—	○	実施しない
地下水の水位		工事/供用	※		観測修正法による最適な工法の採用	○	実施する
河川	河川の変化	工事/供用	※		観測修正法による最適な工法の採用	○	実施する
地形及び地質	重要な地形及び地質	工事/供用	○		—	○	実施しない
地盤	軟弱地盤層の状況	工事/供用	※		観測修正法による最適な工法の採用	○	実施する
その他の環境要素	日照阻害	存在	—	×	高架構造物の上下部工の形式・配置等の工夫	○	実施しない

(凡例)

予測結果 ○:影響がない又は極めて小さい ×:影響あり(基準超過など) ※:環境基準などが存在しないため、予測結果の数値のみ掲載

評価結果 ○:環境の保全についての配慮が適正

■ 環境影響評価の結果 (2 / 2)

■ 景観～地域の歴史的文化的特性を生かした環境の状況

- ・ 地域の歴史的文化的特性を生かした環境の状況では、環境影響があると予測され、環境保全措置を検討しました。

環境要素の区分		影響要因の区分	予測結果		環境保全措置	評価結果	事後調査
			工事	存在			
動物		工事/存在	○	—		○	実施しない
植物		工事/存在	前回審議済			○	実施しない
生態系		工事/存在	○	—		○	実施しない
景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観	工事/存在	○	—		○	実施しない
人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場	工事/存在	○	—		○	実施しない
地域の歴史的文化的特性を生かした環境の状況		工事	×		文化財保護法に基づく適切な措置	○	実施しない
		存在	○	—			
廃棄物等	建設工事に伴う副産物	工事	※	—	・工事間流用の促進 ・再資源化施設への搬入等による他事業等 の活用	○	実施しない
温室効果ガス等		工事	前回審議済		・作業員に対する建設機械の省エネ運転の指導 ・作業員に対する工事用車両のエコドライブの指導	○	実施しない
			※	—			

(凡例)

予測結果 ○:影響がない又は極めて小さい ×:影響あり(基準超過など)
 評価結果 ○:環境の保全についての配慮が適正

※:環境基準などが存在しないため、予測結果の数値のみ掲載